

再生医療で「脱毛」治る?

国循センターなど研究 頭皮移植の手法で

思春期を過ぎた男性の脱落が徐々に進む「男性型脱毛症」を再生医療で治療する試みに、国立循環器病センター（大阪府吹田市）や

れる。計画では、他人の皮を用了め、拒絶反応を引き起す細胞を取り除き、毛穴などの構造を形成したんだが、質だけを残してシートを開発。患者の頭に移植し、毛の元になれる自身の「毛包細胞」と「毛乳頭細胞」を培養してから

頭を植え付けて治療する。頭のシート作りには、高压処理と薬物処理の二つの方法があるので、第一段階として整形外科手術で余った頭皮を入手。それぞれの手法でシートを作り、どちらが正常な頭皮の骨組みを保つやういふかを調べる。

成功された。薄毛や抜け毛に悩む男性の希望の光となるかもしれません。31日の中同センター倫理委員会で承認された。

国立循環器病センターの倫理委員会は31日、手術で余った人間の頭皮に高い圧力をかけて細胞を取り除いた真皮を作製する研究を承認した。申請した山岡哲二生体工学部長らのグループは、将来的に脱毛・薄毛で悩む人にこの真皮を移植し、毛乳頭細胞を注射して毛をはやす再生医療に発展させる計画で、世界でも初の試みという。

頭皮に
院と協力し、頭の手術の際に余った人間の頭皮を利用してする。この頭皮に水中で約

頭皮に再生医療

世界初毛髪復活へ光明

国立循環器病センター計画

が薄くなり、毛穴が変形するなど毛髪が生えにくくなつてしまふ」とが多く、毛乳頭細胞を直接注射しても、正常な育成は難しかった。

Digitized by srujanika@gmail.com

再生医療で“髪のご加護” 人工頭皮開発へ 神戸大など共同 2008.02.01 夕刊 10頁 第2社会面（全302字）

毛髪の悩みに希望の光ー。神戸大と国立循環器病センターなどは三十一日、再生医療技術を応用し、毛のない部分に移植するだけで自然に毛が生えてくる人工頭皮の開発に乗り出すことを明らかにした。

脱毛症などの治療に役立てる狙い。神戸大形成外科の寺師浩人准教授は「まだ構想段階で実用化のめどは立っていないが、うまくいけば夢の治療法になるかもしれない」としている。

研究では、開頭手術などで余った頭皮の提供を受けて下地を作り、患者本人の元気な毛髪から採取した毛包（もうほう）と呼ばれる青毛組織を増やしてのせ、人工頭皮を作成。さらに毛髪のもとになる毛乳頭（もうにゅうとう）と呼ばれる細胞を培養して毛包内に植え付け、発毛を促す。

中日新聞社

自然発毛する頭皮開発へ 神戸大などが共同開発 再生医療技術を応用

2008.02.01 夕刊 8頁 夕刊08 (全371字)

毛髪の悩みに希望の光—。神戸大と国立循環器病センターなどは三十一日、再生医療技術を応用し、毛のない部分に移植するだけで自然に毛が生えてくる人工頭皮の開発に乗り出すことを明らかにした。

脱毛症などの治療に役立てる狙い。神戸大形成外科の寺師浩人准教授は「まだ構想段階で実用化のめどは立っていないが、うまくいけば夢の治療法になるかもしれない」としている。

研究では、開頭手術などで余った頭皮の提供を受けて下地を作り、患者本人の元気な毛髪から採取した毛包(もうほう)と呼ばれる育毛組織を増やしてのせ、人工頭皮を作成。さらに毛髪のもとなる毛乳頭(もうにゅうとう)と呼ばれる細胞を培養して毛包内に植え付け、発毛を促す。

実際に毛が生えてくるかどうかは「やってみないと分からない」と寺師准教授。まず人工頭皮を作り、将来は人で効果を確かめたいとしている。

岩手日報社

。自然の髪と希望の光
。神戸大と國立癌研究病
センターでは三十一日、毛
皮移植技術を用い、毛
のない脱毛症患者だけ
で自然の毛が生えてくる人
工頭皮の開発に乗り出さ
る必要がある」と。
脱毛症などの治療に役立
てる組。神戸大形成外科
の吉田浩人准教授は「まだ
移植技術で实用化のめま
立ち立たないが、うまくい
けば夢の治療法となるかも
しない」としている。
研究では、臨床手術など

夢の頭皮、開発へ

自然発毛 神戸大などが研究

で余った頭皮の採取を受け
て下地を作り、患者本人の
元気な毛髪から採取した
毛髪移植の毛髪細胞を
増やしてから、人工頭皮を
作成。この人工頭皮の内部
なる毛髪移植された細
胞を培養して毛包内に植え
付け、発毛を狙う。
吉田准教授は「やつてみないと
どうかは「やつてみないと
分からぬ」と吉田准教授。
また人工頭皮を作り、被覆
は人で必要を確めたいたいと
している。